

第6学年 道徳科

主題名 きまりは何のために（高C 規則の尊重）

教材名 お客様（出典：文部科学省「小学校道徳読み物資料」）

（掲載 web http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_jicsFiles/afieldfile/2011/03/29/1303863_25.pdf）

本時のねらい

遊園地で遭遇した出来事に対する「わたし」の思いを話し合うことを通して、互いが安全、安心に気持ちよく過ごすためにきまりがあることを理解し、互いの権利や義務を意識しながらきまりを守ろうとする実践意欲と態度を育てる。

指導のポイント

【指導の工夫】

本教材は、遊園地でのきまりをめぐる客と係員との口論の場面に遭遇した主人公「わたし」が、両者の言い分について考えるという教材である。導入・展開前段の指導にあたっては、以下の3点を主な手立てとして価値への理解を深めたい。

- ①導入場面で児童がもつきまりへのイメージについて触れておき、終末の振り返りにおいてその変容を感じられる時間を設ける。
- ②教材で描かれている「権利」や「義務」への多面的・多角的な気づきを促すために、補助発問や問い返しの発問を随所で効果的に行う。
- ③「わたし」が抱いた疑念を考え・議論するためにワークシートを活用する。その際に、『一人で考える→肯定的受容を基本とした小集団での相互交流→全体での交流』を行い、多様な意見に触れ、受容し合い、さらに自身の考えを深める対話的な学びを促す。

展開後段では、前段で深めた価値への理解をもとに、きまりは何のためにあるのかを話し合わせたい。そして、その話し合いの最後には、「きまりが何のためにあるかはわかっているものの、守ることは簡単ではない。どうすればよいのだろうか。」と問い返すことにより、自身も含めた人間がもつ弱さや脆さへの気づきを促し、それを乗り越えていくために必要なことについても考えを深めさせることで、ねらいへと迫りたい。

事前、事後指導の工夫

事前指導の工夫	○朝の読書の時間を活用し、事前に教材文を範読する。
事後指導の工夫	○体育科のゲームの領域の学習で、みんなが楽しめるルールを考える活動を行う。 ○特別活動で、校外学習の事前指導として公衆道徳について話し合う。

展開例

	児童の学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1. 「きまり」のイメージについて話し合う。	○「きまり」という言葉に対して、どんなイメージもっていますか？ ・守らなければならない。 ・厳しい	○きまりのイメージについて話し合うことで、主題への導入とする。

2. 教材「お客様」を読んで、話し合う。

○係の人と男の人の間で、問題になっていることはどんなことでしょうか。そして、それぞれの人はどんな思いもっているのでしょうか

- ・係の人はきまりを守らせたいと思っているが、男の人がそれに従わない。
- ・お金を払ってショーを見に来たお客さんが、ショーを見ることができていない。
- ・きまりが守っていなくて迷惑をかけているのに、それに気付いてもらえない。

【男の人】

- ・せっかく来たのだからショーを見たい。
- ・金を払っている客なのだから、ショーを見るのは当然だ。
- ・きまりを守っていたら自分だけ損をする。

【係の人】

- ・けがをしたら大変だ。安全のために、きまりをまもってほしい。
- ・ほかの人の迷惑になるようなことになってほしくない。
- ・自分勝手にやめて、守るべきことをまもってほしい。

○気持ちが晴れないままだったわたしは、どんなことを考えていたでしょうか。

- ・自分のやりたいようにして、きまりを守らないと、周りが嫌な気持ちになるな。
- ・男の人がやったことは、みんなに迷惑だったからきまりを守るべきだったと思うけれど、納得していないみたいだな。どうしたら、男の人も納得できたのかな。
- ・遊園地側にも問題があったんじゃないかな。

○適所で以下に挙げるような問い返しや補助発問を行いながら、両者の言い分を構造的に板書し、教材中の問題場面について、多面的・多角的に捉えられるようにする。

- ①ショーが見えなくなってしまった時、わたしはどう思ったのでしょうか。
- ②男の人は『お客様』にどのような意味を込めて使ったのでしょうか。
- ③「『申し訳ございません』と言った係の人は何のことを謝っているのだろうか。

○じっくりと考えを深めるために

ワークシートに記入させた後、近くの児童と相互交換し、共感した部分に線を引いたりコメントを加えたりし合うことで、多様な考えに触れるとともに肯定的評価が受けられるようにする。

	3. 自分の経験を振り返る。	◎「きまり」は何のためにあるのでしょうか。 ・みんなが気持ちよく過ごすことができるため。 ・誰かの自分勝手に困らないようにするため。 ・安全や命を守るため。	○「きまりが何のためにあるかはわかっているものの、守ることは案外簡単ではない。どうすればよいのだろうか。」と発問することで、よいと分かっているにもかかわらず実現できない人間の弱さを乗り越えるために必要なことについても考えを深められるようにする。
終末	4. 本時の振り返りをする。	○今日の授業でわかったことや考えたことを書きましょう。	

指導について

板書例

係の人の挿絵

客としての
きまりを守ってほしい

きまりは何のために

客として
好きにしたい

男の人の挿絵

お客様

安心

安全

考えている
私の挿絵

みんな

気持ちよく

- ・ けがをしたら大変だ。安全のために、きまりをまもってほしい。
- ・ ほかの人の迷惑になるようなことになってほしくない。
- ・ 自分勝手をやめて、守るべきことをまもってほしい。

- ・ 遊園地側にも問題があったんじゃないかな。

- ・ 自分がやりたいようにして、きまりを守らないと、周りが嫌な気持ちになるな。
- ・ 男の人がやったことは、みんなに迷惑だったからきまりを守るべきだったと思うけれど、納得していないみたいだな。どうしたら、男の人にも納得できたのかな。

- ・ きまりを守っていたら自分だけ損をする。
- ・ 金を払っている客なのだから、ショーを見るのは当然だ。
- ・ せっかく来たのだからショーを見たい。